

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言～

平成 31 年 3 月 25 日 (月) No.60
発行人

これが本年度最終号。また 4 月から
もお付き合いくださいの川崎先生

◇1 年間のまとめですが、全然まとめになってないです◇

●1 年間ずっとジャンケンをしてくれた子どもたち。勝っても負けても、それが一日が始まるルーティンのようになっている。勝てばうれしいが、決して負けたからと言って悲しい訳ではない。いつ始まったのか思い出せないが、このジャンケンは、川崎と子どもたちの関係性を築く上でなくてはならないものだった。

●長休みになると、校長室の外を走って一輪車や竹馬に向かう子どもたち。これも 1 年間ずっと同じ。この走るということ。何げない行動だが、人間の心が突き動かされなければ、走ることはない。朝、学校へ走って向かってくる子どもたちも同じだろう。走る必然がそこにあるのだ。走りたい何かがあるのだ。

●そうして子どもたちを見ると、1 日中よく走っている。追いかけてこや鬼ごっこは別として、何かをするために走る姿をよく目にする。時間に追われて急いでいる訳でもない。子どもは純粋だ。走ってでも向かいたいもの。そんなものが西小に多いのだろう。走る子どもたちを見ると、それだけでうれしい気持ちになる。

●落ち着いた学校生活などと言うつもりは毛頭ない。楽しみがあって、そこに早く行きたくて、ウキウキして、そして走る。こんな湧き上がる行動なんて、小学校の今だからあるのだろう。こんな見ている笑顔になる行動はもっとあっていい。幸いなことに、西小は死角が少なく、走っても危険が少ないところも長所である。ずっとずっと元気に飛び回れ、西小の子どもたちよ。

●まあ、走れば転ぶこともある。ぶつかりあうこともある。でも“走ったっていいじゃん”。転び方を知らない方がいい？ぶつかり合ってタンコブができる方がいい？タンコブも傷も痛みも何も知らない方がいい？いろんなことを経験して、いろんなことに対応できる人であったほうがいいなあ。

●「西小は大きな家族」と言い続けて 1 年。まだまだ言いますよ。もっともって言いますよ。この学校の良さは、この家族のような親密な人間関係にあり。小さなことは決してマイナスではなくて、大きな大きな長所です。

●今日も 1 年生が話しかけてくる。「校長先生、湾岸ミッドナイトって知ってる？悪魔の Z がねえ～……。86 トレノがねえ～……」。小学校 1 年生ですでに車の知識が半端ない。そのうちもっとマニアックな会話になっていくのだろうか？望むところだ<(`´)>

●今日も頭の上にグーを出しながら、3 学期からの転入生兄妹が近づいて来る。笑顔でジャンケンだ。西小の朝のルーティン。

●卒業生の謝恩会におまけで参加させて頂きました。いやあ、お父さんお母さん、面白いっすね(^_^)v。いろんな話が出来ました。なんとお母さんたちとジャンケン大会まで。川崎の弱さ炸裂(T_T)。朝食の話を覚えてくださったお母さんだけでなくお父さんもいたり、すごい知り合い繋がりがあったり、あっという間の 2 時間でした。こういうの大好きです(^_^)~

●1 年は早いものだ。最近しみじみ櫛形山を眺めることが多くなった。今日はやけに山頂が近く見える。JA の所長さん職員のみなさん、郵便局の局長さんとあいさつを交わし、登校ボランティアの秋山さん、大久保さん、畔上さんと世間話をし、また今日も一日が始まる。この西地区ならではのゆったり感がいい。本当にいい。地域とかわいい子どもたちと西小と自分。この縁の不思議。この縁のありがたさ。満たされ感、半端ない。 平成 30 年度 Family (完)